

# 科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

⑫

## 室内に漂う飛沫

世界中で社会問題となる。

なっている新型コロナウイルス ウイルス感染症に対応していくためには、医学、薬学、疫学、衛生学、化学など、さまざまな方面からのアプローチが必要である。

今回の新型コロナウイルス感染症は潜伏期間が長く、無症状のままウイルスを保有する人も多いと言われており、身の回りに感染者がいるのか否かが容易には分からない。そのため周囲の人との距離が十分にとれない場合

が重要と考えられている。

## 分野横断し連携

後ますます重要となる。

は飛沫を介した感染を防ぐことが必要になる。

中国広州市における

また飛沫の動きを予測するための研究として、最新のスーパーコンピュータである「富岳」を使った飛沫拡散シミュレーションが記憶に新しい。この際に新型コロナウイルスの感染リスクをどの程度に低減させるかなど、現段階で明らかにしていくことは多

に思う。その後、アメリカの拡散シミュレーションが記憶に新しい。この際に新型コロナウイルスの感染リスクをどの程度に低減させるかなど、現段階で明らかにしていくことは多

染リスクを下げることは、一つの領域で解決できない課題があるならば、分野横断的な取り組みが不可欠となる。

JST 研究開発戦略センター (CRDS) のウェブサイトに掲載している新型コロナウイルスに関するショートリポート「都市環境と感染症」編では、飛沫感染や接触感染に関する重要な論文を紹介している。

(金曜日に掲載)

# コロナ感染換気・空調で防ぐ

科学技術振興機構 (JST) 研究開発戦略センター  
フェロー (環境・エネルギーユニット)

徳永 友花



東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修了。専門は建築環境工学。2019年より現職。工学基礎強化に向けた調査に携わる。博士 (工学)。

## 室内環境での飛沫感染防止の取り組み

